



# 茂木高校 ～地域と連携した探究活動「ゆずも学」～

《 特色 》 茂木高校は、総合学科の特徴を活かして、1年次の「産業社会と人間」(2単位)と2年次以降の「総合的な探究の時間」(2年1単位・3年2単位)を「ゆずも学」としてつなげ、地域と連携しながら3年間を見通したキャリア教育の充実と、将来リーダーとなって活躍する人材の育成を目指しています。

## 年間予定

**1年 「ゆずも学」・課題研究Ⅰ**  
4月～ 探究の「型」を学ぶ(クラス)  
7月 茂高祭で発表  
10月～ 茂木町内の施設でフィールドワーク(グループ)  
1月 学年全体で発表会

**2年 「ゆずも学」・課題研究Ⅱ**  
4～7月 課題設定(個人)  
9月 中間発表  
10月 修学旅行での情報収集  
10～11月 まとめ→発表準備  
12月 発表会リハーサル  
課題研究発表会(ポスターセッション等)

**3年 「ゆずも学」・課題研究Ⅲ**  
4月～ 課題研究の論文作成  
自らの進路を探究

## point1

課題の発見や整理方法など、探究を進める上で大切な「型」を1年次に身に付ける。

### 《 主な活動 》

- ・ブレインストーミングやKJ法について学び、課題を見つけて、カテゴリー毎に分類する手法を学ぶ。
- ・「国語総合」と「社会と情報」を連携させて、課題の発見・整理方法を学ぶ。
- ・茂高祭でクラスで協働して調べたことをまとめ、発表する。

## point2

地域に出て多くの人との出会いや協働を通して、地域の課題を知り、解決策を考える。

### 《 主な研究テーマとフィールドワーク先 》

- ・美しい景観へ～for a beautiful view～(美土里農園)
- ・お客をより増やすには(いい里さかがわ館)
- ・美土里堆肥で作った野菜を広めよう(美土里館)
- ・変化に対応した道の駅にしていくなために～休憩スペースを増やそう～(道の駅もてぎ)



## point3

地域の課題と向き合う1年次の活動を活かして、自らの希望する職業の課題を知り、解決策を考え発表する。

### 《 主な研究テーマ 》

- ・「魚の生態と将来の漁業」
- ・「田園回帰を建築物によって促進できるのか」
- ・「コミュニケーションは社会にどう役立っているか」

### 《 生徒の感想 》

建築士として過疎化を防ぐまちづくりに関わる手段を研究しました。将来は建築学を学び、この考えを実現したいです。



## point4

修学旅行先で、インタビューを行うなどして情報を収集し、自らの地域の現状と比較する。

### 《 主な情報収集先 》

- ・警察署…高齢者の事故に関する情報収集(現地の取組、事故件数・状況・特徴など)
- ・ホテル(結婚式場を併設)…現地の結婚式の特徴や結婚に関する本県との違いについて情報収集



## これまでの主な取組



### ●主体的な学びの場を設定

授業での学びを活用する場を校外活動に設定。その活動において、異年齢の集団の中で協働しながら企画・運営に当たることで、「学びに向かう意欲」を高めた。

### 《 学びの場 》

- ・茂木町まちなか文化交流館「ふみの森もてぎ」
- ・「森と里のつながるマルシェ」や「とちぎハイクールフェスティバル」(出店を企画・運営)

### ●指導に対する不安の解消

学習指導部に「総探担当」を配置し、生徒中心の探究活動とするために、指導内容、評価方法の共有化を図った。2年次の課題研究Ⅱでは、生徒たちの伴走者に徹することを共有した。

### ●教員向け指導案の作成

指導案を作成することで、ポイントが明確になり、指導がスムーズに進むようになった。

### ●ルーブリックによる評価の実施

教職員及び生徒の相互評価に活用した。

## これから目指す取組



### ●多面的な評価の充実

令和2年度から、資質・能力別ルーブリックを改訂し、多面的評価の実現に向けて、パフォーマンス評価とワークシート等の成果物の評価規準の作成を目指す。

《 担当者の声 》 学習指導部(産業社会と人間・総合的な探究の時間係) 藤田 祐亮

地域(茂木町)と連携した教育プログラムである「ゆずも学」での探究活動を通して、自ら課題を発見しそれを解決することができる力などの「生きる力」を生徒が身に付けられるように、われわれ教師自身もまさに試行錯誤を重ねながら探究しているところです。